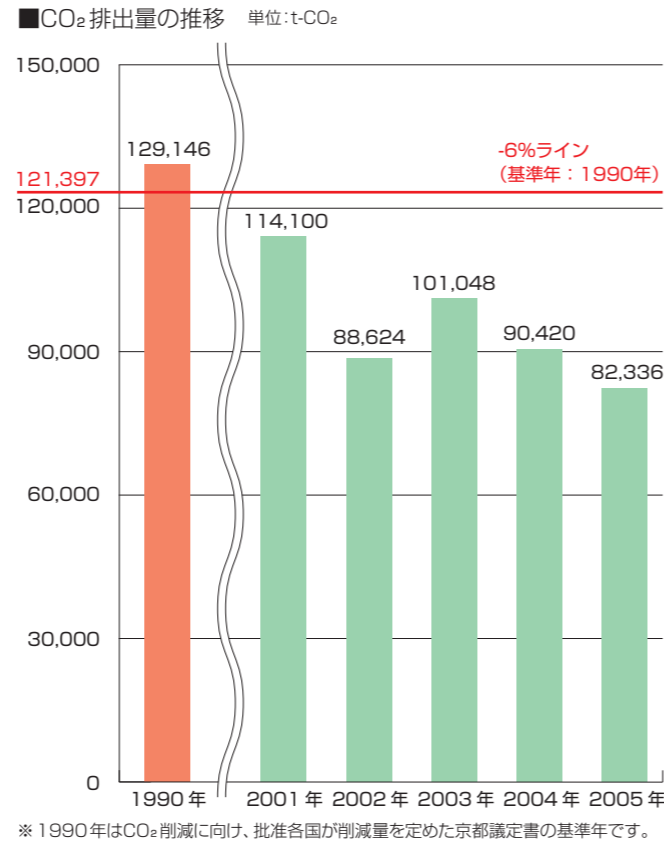


温暖化防止への取り組み

地球環境に深刻な被害を与える温暖化。当社は設備改善等によって、CO₂排出を抑制していきます。

CO₂排出量の推移

1990年発効の京都議定書により、日本国内では、1990年の温室効果ガス排出量の6%削減が求められています。これを受けて、当社では全社的に温暖化対策を始めました。特に、当社のCO₂総排出量の約94%を占めていた加賀屋工場と堺工場では、設備を環境負荷の少ないものへ切り替える等の対策を実施。その成果もあり、2001年からCO₂排出量が、1990年排出量の-6%をクリアしています。



自主参加型国内排出量取引(加賀屋工場)

当社は、環境省の自主参加型国内排出量取引制度に参加しています。これは、CO₂排出量削減に取り組む企業に対し、省エネ対策の補助金を出すというものです。参加各企業には排出枠が与えられ、CO₂排出量をその枠内に抑えることを目指します。当社加賀屋工場は2006年度、38,031 二酸化炭素トン (t-CO₂) の排出枠初期割当を与えられました。



省エネ対策(堺工場)

堺工場では、コージェネレーションシステム(一つのエネルギーから複数の有効なエネルギーを発生させるシステム:熱電供給)を新たに導入しました。また熱風キュボラによる溶解を行っていますが、その熱風発生装置である空気予熱器を2005年に更新しました。この更新により、熱効率が上がり、省エネルギーに大きく寄与します。システム導入前に比べ、コークス使用を約5.4%削減し、電力量も各付帯設備で異なりますが、それぞれ約10~20%削減しました。



製品・サービスにおける温暖化防止への貢献

クリモトでは、石油に代わるクリーンなエネルギーの開発に尽力しています。

バイオガスプラント

生ごみや家畜の排泄物など廃棄物からエネルギーを生成する「バイオガスプラント」。廃棄物から発生するバイオガスの中からメタンガスを取り出し嫌気性メタン発酵させることで、電気と熱に変換するシステムです。メタンガスには温室効果があり、地球温暖化を促進する一因となっています。また、家畜の糞尿が野積みになれば、土壌・水質汚染につながる点も問題視されています。「バイオガスプラント」を使用すれば、エネルギーとして有効活用できるため、省エネルギー・温暖化対策はもちろん、廃棄物の減少にも高い効果を発揮します。現地で組み立てて設置するプラントとは異なり、当社ではコンテナ型の発酵槽を工場生産し、現地へ置く方法をとっています。これにより、低コスト・短工期の製品を実現しました。



燃料電池

燃料電池は、都市ガスや液化ガスから取り出した水素と空気中の酸素を化学反応させ、電力を生み出す仕組みです。従来の発電方法と違い、燃やすことがないのでCO₂を排出しません。当社では2003年から、障がい者や高齢者用の燃料電池電動車いすの試作を開始。2006年9月末から、本格的な使用実験に入りました。従来の充電式に比べ、2倍以上長い連続10時間走行が可能。より便利な移動ツールとして、いち早い実用化を目指しています。



圧縮天然ガスステーション エコステーション

天然ガス自動車の利用が平成15年末時点では、全国ベースで2万台近くになるなど、天然ガスの需要が増えつつあります。当社では、2003年に天然ガス供給施設「エコステーション」を開業。天然ガスはCO₂や窒素酸化物の排出量が少なく硫黄酸化物を排出しないため、大気汚染対策には欠かせません。環境負荷の少ない天然ガスを普及させることが、温暖化抑制につながります。

